

英国最高裁判所長官の来日

英国最高裁判所のリード長官は、令和5年11月26日から12月2日までの間、最高裁判所の招へいにより日本を訪問されました。日本と英国の裁判所の間には、深い交流を続けてきた長い歴史がありますが、英国最高裁判所長官が、最高裁判所を訪問されるのは初めてのことです。

リード長官には、日本の多くの裁判所関係者らと精力的に交流していただき、日英の裁判所間の相互理解を深め、関係を一層強化する上でも、またとない機会となりました。

※[こちら](#)のウェブサイトには、リード長官と戸倉長官のメッセージも掲載されておりますので、是非御覧ください。右の二次元コードからもウェブサイトを御覧いただけます。



11月27日（最高裁判所訪問）

戸倉長官との会談では、裁判手続のデジタル化やそれに伴う諸課題などについて、和やかな雰囲気の下、活発な意見交換が行われました。また、戸倉長官とともに、大法廷及び小法廷など庁舎内を見学されました（写真1、2）。



11月28日（ビジネス・コート訪問）

リード長官には、令和4年秋に開庁したばかりのビジネス・コート（知的財産高等裁判所・東京地方裁判所中目黒庁舎）も訪問していただきました。ウェブ会議ブースや法廷等を見学していただいたほか、ビジネス・コートのコンセプトやデジタル技術を活用した民事手続等について、裁判官らと意見交換していただきました（写真3）。



11月29日（最高裁判所訪問）



リード長官は、「英国の裁判所における口頭審理：過去・現在・未来」をテーマに講演されました。リード長官からは、英国の司法制度における口頭審理の意義等について、歴史的な経緯や将来への展望も含めて、大変示唆に富むお話をいただき、会場の聴講者との質疑応答も活発に行われました（写真4、5）。この講演は、オンラインでも配信され、日本全国の多くの裁判官と裁判所職員が聴講視聴しました。

リード長官と最高裁判事らとの意見交換も行われました。リード長官と戸倉長官らは、最上級審における口頭弁論の在り方や司法府の役割など、様々な話題について、議論を交わしました（写真6）。



11月30日（東京高等・地方裁判所訪問）

東京地方裁判所では、裁判員裁判を傍聴していただいたほか、刑事第1審事件の運用等について、刑事部の裁判官らと意見交換をしていただきました（写真7）。

また、東京高等・地方裁判所の主に若手裁判官らを対象として、裁判官としての成長について、リード長官の御経験を踏まえたお話をしていただきました。参加した多くの裁判官らは、裁判官の職責の重さややりがいの大きさに思いを新たにしました。

